



放っておけなかった ここに、愛着があるから

自慢の港近くの公園 再生させたかった

私は子どものころ、よく港坂で遊んでいたんです。その向こうで、港の建設が進んでいました。父が漁業関係者だったというところもあって、完成するのをとても楽しみにしていました。広いし、立派だし、大きな船も入港する。灯台と並ぶ御前崎の代名詞が出来たと思えました。いつしか、自分の自慢の場所に

もなっていましたね。だからこそ、港近くの公園が荒れた状態にあることを放っておけなかったんです。作業の必要性を感じました。周囲の人からは、県の人たちがやればいいんだという声も聞かれました。でも、見て見ぬふりできなかつたんです。みんなできれいにしようと小澤さんと一緒に、会員に呼び掛けました。みんなこの公園を何とか再生させたいと思っていました。たし、ビオトープ作りに携わつ

たことで、愛着も湧いていたんです。快く賛同してくれました。雨が降っていても、毎日のように足を運びました。13年たつた今も、大好きなこの場所を輝かせたいという一心で、作業を続けています。

最近では、散歩で利用してくれる人も増えたとし、幼稚園や小学校の子どもたちも遊びに来てくれるようになりました。バスを利用して、市外から公園を訪れてくれる団体もあるんですよ。

みんな「また来るでね」と笑顔で帰ってくれます。その姿をみると、本当にうれし、続けてきたかいがあったと感じます。

大勢の人が訪れてくれる公園に出来たのは、私一人の力ではありません。会員の協力がなかったら、こんなに整備できなかったと思います。全員で「エコパークをきれいにしよう。人が憩い、笑顔があふれる公園にしよう」と取り組んできたから今の形があるんだと思います。



御前崎エコクラブ会長
やまもと きみえ
山本貴美枝さん

エコパークを笑顔あふれる公園にしたいと
ひたすら走り続けてきた13年間
毎日のように作業に励む山本会長が
今までの活動を振り返る
そして、活動の良さとは何なのか
エコパークのこれからを
語ってもらう